

ご挨拶

2019年9月6日～7日の2日間、ウィーン大学東アジア学科日本学において、第32回日本語教育連絡会議が開催されました。第13回の2000年、第22回の2009年に続きこれでウィーン開催は3度目となりました。2000年の第1回目開催以来、実に19年という月日経っていることに驚いています。これだけの時間経っても、この会議の温かい雰囲気は変わらず嬉しいかぎりでした。参加者の皆様のご協力で充実した2日間となりました。

第1回目は会議開催のお知らせ、参加者募集、その後の事務手続き全てを手紙で処理していたため、ずいぶん時間がかかったこと、郵便局へ何度も足を運んだことを思うと、第2回目はメールで全てが済む世の中となり隔世の感がありました。

そして、第3回目の今回は発表募集からプログラム作成まで若井さんに丸投げしてしまったことで、さらに楽にことを進めることができました。若井さん、本当にありがとうございます。おかげさまで私は会場準備と懇親会準備に専念することができました。

当日の休憩の茶菓などの準備もアルバイトの学生に丸投げしました。私が何も指示せずとも気を働かせて動いてくれました。感謝します。

2日間、参加者でありながら日本学のスタッフとして他の参加者のお世話をしてくださったジーデンブルグ晶子さん、ゲーハー史穂さんありがとうございました。

発表2日目に途中でマイク、スピーカーの調子がおかしくなるというトラブルが発生してしまったにも関わらず、会議を無事に終えることができたのは、ひとえに全員でこの会を盛り上げてくださった参加者の皆様のおかげです。心から感謝いたします。

マダドナーめぐみ